

佳作

「おばあちゃんありがとう」

新潟県 南魚沼市立栃窪小学校 五年 笛木 沙也佳

わたしが一番「ありがとう」と伝えたい人は、おばあちゃんです。

わたしの家には、お母さんがいません。わたしが小さいころになくなってしまったからです。だから家事はみんなおばあちゃんがやっています。おばあちゃんは朝早く起きて、わたし達の朝ご飯を作ってくれます。夜はおそくまで世話をしてくれています。おばあちゃんは、朝から夜まで、わたし達のめんどうを見ていてくれます。

でもわたしはそれを前までずっと、当たり前のように思っていました。わたしはよく妹とケンカをしていて、おばあちゃんはそれをよく止めにはいつていました。姉と妹という関係なので、わたしがおこられることが多かったです。わたしはそれを差別と違って反発していました。たまには、おばあちゃんにとってひどいことを言ってしまったこともありました。

おばあちゃんがわたしにご飯をもれとか、はしを持ってきてくれなど、たのむことがありました。わたしは聞いてないふりをしたり、わたしの妹がしたりしていたこともありました。そうではなくても少しイヤイヤながらやるのが多かったからです。そのような、おばあちゃんに、

「少しでも手伝いをしてくれ。」

と言うことがありました。でも、手伝いはしているのでそれで言い争いになってしまつことも少しありました。

それでもおばあちゃんは、わたし達が遊んでいる時にげんかんのガラスをまちがって石でわってしまった時、お父さんに自分がやったとわたし達をかばってくれたこともありました。それだけではなく、ある日の夜、お兄ちゃんがお父さんにすくしかられていた時に、お兄ちゃんを学校の方まで連れていったこともありました。ケンカしていた時、わたしをおこつたのも、姉なのでしかたなかったと思っています。それにおばあちゃんは、

「お前がにくくておこるんじゃないよ。悪い子にしたいからおこるんだよ。」
と、よくわたしに言ってくれました。

おばあちゃんは今年で七十八才なので、一人だけで全ての家事をまかせるのは大変だから、これからは少しでも手伝っていきたいと思います。

いつもはとてもやさしいけれど、おこる時はとてもこわいわたしのおばあちゃんは、母親に代わってわたし達のためにいろいろ働いてくれています。口でははずかしくて言えないけれど、心の中では本当に「ありがとう」と、何度も思っています。